



令和3年3月1日 現在
総世帯数 7,867世帯
総人口 17,207人
男 8,617人
女 8,590人

凍れる音楽で知られる奈良、薬師寺の東塔。70年前の昭和27年に屋根の葺き替えが行なわれた際に、全国から瓦が寄進されました。

お帰りなさい

薬師寺の瓦



平成21年から30年に、東塔の全面解体修理が行なわれた際に、降ろされた約3万3600枚の瓦の中に4815枚の寄進瓦があることが分かりました。個人によるものがほとんどでしたが、その内、344枚が長野県内の学校からでした。

入っていた箱も立派でした。



瓦には、長野県東筑摩郡 筑摩野中学校とあります。

奈良県国宝保存連盟が、信濃教育会と修学旅行で奈良を訪れている県内の学校に呼びかけ、それに応じたものです。その内の筑摩野中学校から寄進された縁の瓦が、昨年9月母校へ帰ってきました。戦後の貧しい時代に文化財の保護に協力した「筑中生の心意気」を伝える歴史の証人です。瓦は筑中玄関の展示ケースで見ることがができます。

才教学園へ最強?の先生

「学校がある村井町のことや昔の遊びを教えてください!」才教学園の3年生のリクエストに応えて、柏澤公民館長が2月24〜26日まで、社会の授業に登場しました。



館長が小学校3年生だった年に開催されたのが東京五輪。授業時間を潰してテレビを見ていたと聞いて、思わず「いいなあ〜!」。



メンコやコマ、布製ボールでの野球や芳川の歴史、村井宿の話に目を輝かせながら質問を連発。授業の翌日と翌々日には、クラスごとに村井宿を散策。本陣や脇本陣、山村家を見学しました。脇本陣では奥行を歩数で計測。「150歩もあつたよ」と、その大きさに驚いていました。

西村正治さん 藍綬褒章を受賞

長年、民生・児童委員を務められている村井町の西村正治さんが昨秋、藍綬褒章を受賞されました。



現在8期23年目。

「民生



委員はやりがいのある仕事です。研修で色んなことを学び、視野を広げることができました。多くの出会いは私の財産です。こんにちは赤ちゃん事業も私が引き受けて始めたものです。小学校でのしめ縄づくりも私の今のスタイルにしました。」と、西村さん。まさに、人づくり地域づくりの総合プロデューサーですね。これからもよろしく！



アマビエでコロナをブロック!!

芳川児童センターの児童の皆さんが、疫病を退治したといわれる妖怪・アマビエをプレゼントしてくれました。地域の人からいただいた瓢箪(ひょうたん)をカラフルで可愛いアマビエに変身させました。地域づくりセンターの玄関でコロナをがっちりブロックしています。

芳川の今昔物語

第33話

春の風物詩・レンゲ畑



撮影:1960年代か?

化学肥料が出回っていない昭和30年代まで、田んぼに植えられたレンゲソウ。根粒に大気中の窒素を取り込んで、窒素肥料のようなかたちで蓄える草肥だった。昭和44年から建設が始まった寿団地は、まだ造成されていない。

圃場整備された農地は広く、機械化された農業が展開されている。牛馬糞(ぎゅうばすき)で耕していたころは根粒も一緒に起こしていたが、トラクターでかき混ぜると根粒が絡みついてしまう。



撮影:2020,9,2

やまびこ保育園や量販店の建物が並び、山裾まで開発が進み住宅街になっている。

たちばなし

令和2年度芳川地区公民館報編集委員として活動してきました。この間、テレビを見ていて、コロナウイルスの關係で、外出する事を控え、家の中で過ごす時間が増えて、ペットを購入する人が増加したと放送されていました。



生後1ヶ月、白のオカメインコを買入。メスだと思い、サクラと名付けました。我が家に来てまもなく、突然サクラの様子がおかしくなり、息苦しそうで目が話せない状態になり、一晩中手の中で見守り続け、次の朝、医者に行き薬を飲ませ手当てして貰い、おかげ様で元気になりました。その時、先生から「この子はオスですよ」と言われましたが、そのままサクラと呼んでいます。生後2ヶ月頃より言葉を覚えて、今では「鳩ポツポ」の歌を足でリズムをとりながら歌っています。

手を掛けただけに可愛く、コロナウイルスの中、サクラのお喋りは我が家を癒してくれています。